

第 7 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 7 期宇治市生涯学習審議会 第 12 回審議会						
日 時	平成 29 年 4 月 26 日 (水) 午後 2 時 ~ 3 時 45 分						
場 所	生涯学習センター 2 階 一般研修室						
出席者	委員	○	岩井 浩	○	小宮山 恭子	○	西山 正一
		○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	林 みその
		○	奥西 隆三	○	清水 桂子	○	向山 ひろ子
		○	木村 孝	×	杉本 厚夫	○	森川 知史
		○	切明 友子	×	長積 仁	○	六嶋 由美子
	事務局	○	藤原 千鶴 (教育部参事(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	瀬野 克幸 (教育支援センター長)				
		○	福山 誠一 (教育支援課長(兼)青少年指導センター館長)				
		○	前田 暢 (生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹)				
		○	植村 和文 (生涯学習課生涯スポーツ係長)				
		○	高橋 紀子 (生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	野口 里佳 (生涯学習課生涯学習係長)				
		○	粕谷 祐次 (生涯学習課生涯学習係主任)				
	○	太田 悠 (生涯学習課生涯学習係主任)					
傍聴者	0 人						

会議要旨は、下記のとおりである。

• 第 11 回審議会の会議録について

訂正がないことを確認し、ホームページで公開する。

1. 報告事項

➤ 平成 29 年度宇治市教育委員会の事務局体制について

(事務局)

今年度、教育委員会で組織上の大きな変化はなかったが、生涯学習課の副課長が生涯学習センター主幹を兼ねることとなった。

➤ 宇治市教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書 (平成 27 年度実施事業) について

(事務局)

社会教育部門では、宇治市子どもの読書活動推進委員会が、「幅広い関係者による活動が展開されている点で注目される」とある。また「生涯学習センターの講座や公民館活動は活発であり、その継続、拡充を図っていただきたい」とあるが、「固定化・高齢化の傾向が

気にかかる」「後継者が育っていないように受け止められる。改善方策を検討していただきたい。」と評価されている。全文は市ホームページで閲覧できる。

(委員長)

学校教育と社会教育の連携については、特に推進していただきたいと思っている。

➤ 「宇治市子どもの読書活動推進計画(第二次推進計画)」の中間見直しについて

(事務局)

宇治市では国や京都府の動向を踏まえて、平成 19 年 3 月に「宇治市子どもの読書活動推進計画」を、平成 24 年 3 月に同第二次推進計画を策定した。本計画は、平成 24 年度から平成 33 年度までの概ね 10 年間の計画の対象期間とし、取組の進捗状況変化等に対応するため、計画の中間見直しをすることとしており、前半 5 年間の成果を確認するため、取組状況調査を実施した。現在実施しており今後も継続する評価 A の事業が 64 件、実施しているが課題があり、課題を見直して今後も継続する評価 B の事業が 30 件、未実施で、今後実施を予定している C の事業が 4 件だった。本計画を見直すにあたり、国と京都府の動向について確認したところ、既に国や京都府の第三次計画の内容を踏まえているため、それに合わせた変更は不要であり、継続して計画の推進を図ることとした。今後 5 年間は、課題のある評価 B の事業については、課題解決を図りながら継続実施し、未実施となっている評価 C の事業についても、残りの計画期間で実施に向けて取り組んでいくこととする。

(委員長)

事業について活発に続けてもらうのは良いことだが、日本語の問題については課題が多いと感じている。私は日本語学会にも所属しているのだが、正確な日本語を教える教育はうまくいっていないのではないかと感じる。グローバルな視点で見れば、論理的で正確にことばを伝えるということができないとまともに議論ができないが、だんだん曖昧な日本語になってきていると思う。年を取ってきたからというより、前々から感じている。

(委員)

この計画で想定している対象の年齢はいくつなのか。

(事務局)

計画ではおおむね高校生までの全年齢としている。対象にしやすいのは小中学生だが、「はじめての絵本ふれあい」事業などもあり、乳児から対象である。

(委員)

不読率(1か月に1冊も本を読まない子どもの割合)はどういう推移を示しているのか。というのは、最近は大人でも、電車で本を読む人が少ないと感じる。以前は新聞、週刊誌、漫画、参考書などを読む人が多かったが、今はみんなスマートフォンをしている。

(委員長)

出版社の主たる収益は漫画で、活字は読まれなくなっている。日本の国語教育は道徳教育のようで、本をどう読むかを教えている。ことばを教える方にも力を入れてほしい。教員を養成する中心は文学で、日本語学、国語学を専門にしている人は少ない。日本語をきちんと教えるというプログラムがない。根本的な問題だと私は思う。

(委員)

小学校現場では、子ども達に本にふれる機会を増やすようにしている。図書館の蔵書数の増加、国語の時間に地域のボランティアに来てもらい読み聞かせをするなど。笠取第二小学校では、月に 1 回全児童を対象にした「全校国語」を行っている。4~5 冊の読み聞かせを行い、全員が感想を述べる。児童数が少ないことでできる催しだと思う。不読率に対しても、以前より読書の機会は、学校現場では増えているように思う。保育園や幼稚園でも絵本を読み聞かせ、本を好きになってもらう第一歩を大事にしている。蔵書数が増えているのは明らかだが、子どもに読書の機会をどう与えるかは学校ごとに特色がある。司書教諭は全校配置で、様々な行事を通して子ども達に興味関心を持ってもらう。

(委員)

小学生の孫がいて、国語の読みの宿題を聞くことがある。棒読みにならないよう工夫しているが、1 分程度で終わってしまう。以前ある小学生に算数を教えていると、「表面積」を「おもてめんせき」と読む子がいて驚いた。これからどんどん英語教育が進んでいくと思うので、日本語教育がおろそかにならないか心配だ。私自身あまり本を読まなかったが、本の必要性は大人になってわかった。本を読まないと使うことばの量が少なくなった。

(委員)

計画の見直しでは、学校の司書の配置は A 評価（できているのでこのまま継続する）となっているが、欲をいえば全校に配置される状態になって A であってほしいと思う。本を読むきっかけづくりは学校司書によるところが大きいので、休み時間に気軽に図書室に行ける環境ができればいい。今、宇治市では学校司書は 8 人いて、それぞれが小中合わせて 3~4 校ずつ受け持っているが、学校司書がいないと図書室が開いていないこともあり、各校配置なら、読書の推進も、もっと進むと思う。

(事務局)

A になった理由としては、学校司書の配置は実施しており、事業の内容としてはできているという評価になっている。

(委員)

国語ができないと、算数も理科もできないのではないかと。国語の力があれば解けるわけではないだろうが、問題の意味が分からないと、答えることができない。国語の力うんぬんより、基本的なこと、読解力の育成などを学校教育に期待したい。

(委員)

最近文章を文章として認識できない子がいる。文字は読めるのだが、文章を意味として認識できない。

(委員)

発達的な問題もあるかもしれない。学校では個に応じた対応をしており、担任以外にも他の教員が関わっている。笠取第二小学校では、児童数が少ないので、ひとりひとりをじっくり見ることができる。児童を本好きにすることもできる。ひとりの教員が対応できる児童の数が少ないので、例えば読書でも、必ず感想を言う機会があるため、考えたことをわかりやすく伝えることを学ぶ。学校司書が月に一度、ボランティアと一緒に読み聞かせの計画をしている。また別に司書教諭がおり、連携して取り組んでいる。図書室だけでなく、廊下、玄関フロア、学級貸出用の図書がある。理想は、読みかけの本を手の届くところに置いておいて休憩時間にすぐ読めるようにするなど、図書室以外でも本に触れる機会があることだ。

(委員)

発達的な障害はない子だが、家に親がいない、話し相手がいない、ひとりで食事をしているなどの問題を抱えた子を知っている。私は孫の朗読を聞いてやれるが、それをしてもらえない子どもがいることも現実だ。

## 2. 協議事項

### ➤ 第7期宇治市生涯学習審議会報告書について

(事務局)

前回委員のみなさまに発送したものより、字句の修正をした部分があるので、今一度ご確認いただきたい。今期は委員の発表が審議のメインとなったので、その報告を中心に構成している。後半の提言のところは委員長に作成いただいた。

(委員長)

本日の会議での意見交換を最後に、報告書が完成することになる。できあがった報告書は日程調整の上、教育長に提出することになる。今期のみなさんの発表を、この審議会での報告にとどまらず、できるだけ広く多くの方に聞いてもらいたい、そのことについて来期で進めていけたらと思い、提案した。内容についてでも、それ以外のところでも、言っておきたいことがあれば何でも出していただきたい。

(委員)

ここ数カ月、知り合った人と簡単な自己紹介をするときに、社会教育や生涯学習について話したことがあるが、理解してくれる人は皆無だと感じた。工夫しながらなんとか説明すると、「立派なことをしていますね」と言われる。特別なことをしていると思われがちなので、今回の提案のところで、市民によく聞いてほしいなとすごく実感した。興味は無く

ても話を聞くのが好きな人がいることもわかったので、意識を変えるとまではいなくても、少しでも知ってもらうだけでも意味はあると思う。

(委員長)

このことを少しでも前に進め、今起きていることを我がこととして受け止められる人が増えてくれればいい。この時期、新しい学生も入ってきて、今日までの様子を見ているが、自分のことに当事者意識を持っていない学生が非常に多い。自分の人生の当事者は自分自身なのだと教えてきているのだが、そういう意識を持ってないまま成長してきている。社会に出て、自分のことを自分のこととして行動していけるのだろうか。ひとりでも多く自分のこととして、行動してみようという気になってくれたらと思う。

最近よく、これからは AI (人工知能、Artificial Intelligence の略) 化がどんどん進むという話をしているが、この頃ようやく報道されるようになってきた。ある本に、「やがて人間は AI に太刀打ちできなくなる。では人間とはどういうものか」といって、非効率なものだ。無駄なこと、役に立たないことにがんばれる。そこにハートを感じて人を動かすことができる。その部分で人間は AI に勝てる。」と書いてあった。我々はまさにそういう時代を迎えていくことになる。社会貢献などもそこに関わってくる。便利・快適だけの追求なら機械に任せればよい。いずれ世の中が大混乱に陥るかもしれない。

(委員)

将棋でもコンピューターが勝つということが起きている。

(委員長)

コンピューターが性能的に扱いやすい方から、チェス、将棋、碁の順であるらしい。碁では最近、コンピューターが人間に勝ったが、今まであらゆる棋士が打ったことのない手で勝ったという。学習して、考えて、打つということをした。とても革新的なことだ。月に行ったアポロより、今我々が手にしているスマートフォンの方が、性能が上だという。この 10 年ほどで状況は激変すると言われている。

(委員)

「感じる」というのは機械にはできないのではないか。

(委員長)

「感じる」というのはセンサーで、人間以上に高性能に反応・分析することができる。コンピューターが作詞作曲やデザインもできてしまう。新聞記事のデータだけ扱って報告することはもうコンピューターでできる。我々が創造的な行為だと思っていた文学作品もそのうち作ってしまうだろう。創造とは何なのだろうか。

(委員)

しかし AI 化が進み、様々な方面に取り入れられていくと、人間が職・収入を失い、生活

ができなくなってしまう。

(委員長)

それは前から議論されている。実際に経済界から指針が出ていたと思うが、機械に労働力を提供してもらったら、その機械に対価を支払わなければならない。こういう方策を立てていかないと、容易に失業が進み、購買力が低下し、経済が回らなくなってしまう。

(委員)

自動車の製造工場などは、ほとんど機械で動いている。

(委員長)

職場の近所のスーパーでも、支払いは機械で行うようになっていた。そのうちバーコード読みも機械化されるだろう。

(委員)

アマゾンでは商品をかごに入れるだけで支払いが済むシステムが始まっている。

(委員長)

日本でもこの 30 年で多くの職業が無くなっていくと言われている。大学の教員も無くなってしまいかもしれない。

(委員)

これまでの話を聞いていると、機械に勝つには人間は無駄なことをしなくてはならないとあったが、無駄なことばかりをしていては仕事にならない。辻褄を合わせたり、ミスをごまかしたりは人間のやることだ。我々の仕事でも、家を機械で建てたり、工場で作ったりが進んでいるが、100%そうはならない。機械で作った強度はあるが、味気ないものより、手作りの方が好きだという人もいる。

(委員長)

銀行員の方から聞いた話だが、書道ができる人を雇っているという。特別の顧客には、手書きの文書を出しているらしい。

(委員)

「わび・さび」とか毛筆の文字、能などの芸術は機械にはできないのではないか。

最近、近所の駄菓子屋での会話がなくなっている。会話の先に「あんたどこその孫やね」とか「おじいちゃん元気にしとるか？」などのやりとりが生まれてくるのだが。スーパーでもマニュアル通りしか会話せず、「レジ袋は要りません」のカードができ、会話をなくしていったら本当に良いのだろうか。

(委員長)

実際、人間が相手でない店の方が収益を上げている。以前にも挙げたが、店員が寄ってきてほしくない人はその旨を書いた札を下げていると店員が寄ってこない。そのシステムを採用した店舗の売り上げが高かったという。店員が近づいてくるともう買わない。

(委員)

人との会話は無駄なものなのか。

(委員長)

無駄というより、人間関係が煩わしいと感じる人が増えているのだろう。

(委員)

知り合いに聞いた話だが、ある銀行で、年金支給日に年金を受け取りに来る人に、女性の行員が待ってもらうのも悪いので、ATM に案内したところ、「あんたの顔を見に 2 カ月に 1 回来てるんや」と言っていたのを聞いたという。フェイス・トゥ・フェイスということだが、これは機械にはできない。

(委員長)

営業マンは商品より人を売るのだとよく言うが、これはどこまで通用するのだろうか。

(委員)

以前マクドナルドで「スマイル 0 円」とあったが今もやっているのだろうか。

(委員長)

だいぶ前の話だが、あるファストフード店でアルバイトをしている学生が言っていたが、店に来た子どもに対して大人とは口調を変えて話しかけたら、店長に子ども相手でも大人と同じようにマニュアル通りに話すよう注意されたという。

(委員)

子育てで、離乳食はなめらかに作って出すとか、インターネットやスマートフォンでいくらでも情報が入ってくるが、実際うまくいかないことがあり、具体的な相談などで、電話や対面での対応を求めている人はいる。細かいことを話そうとすると、ことばのやりとり、会話のキャッチボールがやはり必要と感じる。

(委員長)

最後はそうなると思うのだが、かつてはそういう風に人に問いかけるしかなかった。しかし今はインターネット上に答えがあるので、それで済まそうとしてしまう。便利で簡単なのでどうしてもそこに頼ってしまう。すると問いかければ解決するのに、問いかけられない人が出てきている。そこが社会教育のテーマなのだと思う。

### 3 . その他

#### ➤ 平成 29 年度社会教育事業について

(事務局)

日程が発表されている今年度の予定のみお知らせしておく。主なものを挙げておく。

- ・山城地方社会教育委員連絡協議会総会について(6月16日宇治田原町)
- ・京都府社会教育委員連絡協議会総会について(6月30日京丹後市)
- ・近畿地区社会教育研究大会兼京都府社会教育研究大会(9月7日京都テルサ)
- ・第59回全国社会教育研究大会北海道大会について(9月11日~13日札幌)

#### ➤ (仮称)宇治川太閤堤跡歴史公園の計画見直しについて

(事務局)

先日、所管の歴史まちづくり推進課により、建設水道常任委員会に報告された。この話題については、前期の中で、平成26年に宇治公民館の機能移転について議論していただき、進めてきたものであるが、以前も説明したように、複数年にわたる予算が、2回議会で否決された。その後歴史まちづくり推進課を中心に、庁内でも関係課で議論を進め、そのまとめとして今回報告された。宇治公民館に関する部分だけ紹介しておく、多機能複合施設として宇治公民館の機能移転を考えて提案してきたが、この部分は取りやめ、観光目的に特化し、内容・財政負担を減らすよう見直しがされた。もともと四つの機能を入れていたが、そのうち宇治公民館の機能移転に関わる「地域住民相互の交流促進」の部分が削除された。名称も「地域」が取れて「観光交流センター」となった。地域交流の機能として考えられてきたスペースも廃止となり、観光交流機能の会議室等に置き換わった。以上、途中経過として、見直しの方向として提示されているものを報告する。

(委員長)

ひとことでいえば、この施設から宇治公民館の機能は無くなった。そこで宇治公民館はどうなるのかということは全く触れられていない。このまま消えてしまうということもある。決定ではないが、方向が出された。

(委員)

宇治公民館のところは6年後にはJRの複線化によって敷地が減る。踏切も閉鎖になり、新しいバイパス道路ができるとさらに狭くなるかもしれない。現状のままあの位置でいいのかどうか、第3の土地を探して移すのか、しかしこれには費用も必要だ。または中央公民館に統合されるのか、しかし中央公民館も行事と催しと会議で利用がいっぱいの状態なので、利用者は苦労されることになる。行政も議会も市民も次の策は考えていかないといけない。我々の立場で、地域のつながり、社会還元、社会福祉の増進などを進めていくことを考えると、施設が無くなると人が集まる場所、人がつながるところがなくなる。現状もしくは縮小しても続けていく施策の方向もありうる。本当に難しいところだ。



(委員長)

大きな流れでいうと、全国的には公民館のコミセン化の流れがあった。一気に進まなかったのは、震災で社会教育・公民館のあり方を問い直す動きが起こったから。そういう意味では学校教育もどう地域につなぐか問われる時代になりながら、では根本的に公民館のあり方を問うことに、宇治市も含めお金を使っていこうという方向にはなっていない。今、宇治でこれが縮小の方向になるかもしれないことに対して、我々は審議会として意見を言わなくてはならない。報告書でも、できるだけ我々が話を展開していこうと提案しているところなので、是非意見を出していきたい。我々がどこまでできるかわからないが、公民館のあり方をもう一度問い直して、社会教育の場としてうまく動かしていかないと、声を上げて難しい状態だと思う。

(委員)

先ほど言われたように、場所が物理的・地理的な関係からどうなるかわからない状況の中で、無くなってしまふことを前提に考えた場合、生涯学習審議会としては、生涯学習の推進の上でも、公民館は重要な施設なので、我々も意見をまとめて出さないといけない。次期でも議論をしていかないといけない。生涯学習審議会委員の立場からいうと、公民館がなくなるということは、この場所に限らずどこの場所でも同様なのだが、市民の生涯学習の意欲がなくなることなので、現状の館数は維持することを表明すべきと考えている。

(委員長)

私もそう感じている。コミセン化などで、貸館だけになってしまうのは避けたい。

(委員)

宇治公民館は、市民会館との併設になっており、今の状況は市民からすると使いやすいのだと思う。それより、あの場所に残るのか無くなるのかが今のところわからないのだが。

(委員)

JRの鉄橋がもうひとつでき、敷地も減る。そういう物理的な面だけではなく、使う人のノウハウをどうするのか。つながりができて、コミュニティができて、生涯学習、社会貢献や、人材の育成の機能も必要だ。

(委員長)

議会も含めて、コミュニティをやせ細らせていくことがどういうことになるのかわかった上で進めているのか疑問に感じている。いつ頃本格的に決まってくるのか。

(事務局)

これが出た時点で次の段階に進めていくということでの中間的な報告だと思う。庁内的には連携しているが、今のところ確定したことはない。

(委員)

今回現状を知ったことで、次の策を考えやすい。どう検討して推し進めていくか。

(委員長)

本決まりではないにしろ、こういう方向が出ている以上、審議会としての意見を表明しないといけないと思う。

(委員)

20年ほど前、車でキャンプに行ったが、信州などへ行くと、山奥のへんぴなところに、立派な施設があり、温泉までありくつろげる。そういうところがたくさんあった。そう考えると宇治はさびしいなと感じる。今は観光でたくさん人が来ているが、宇治に来る人は何を目的に来ているのだろうか。

(委員長)

宇治に限ったことではないが、今は観光が大きな収益になっているのは事実だが、いつまでも続くかどうかはわからないので、そこに居住し続ける市民のことを考えるのも大事だと思う。

(委員)

ちょうど太閤堤の近くになるが、以前宇治川花火大会の打ち上げを塔の島の辺りでやっていた。消防団で出動したときに、茶園の中に入ったことがある。関係ないかもしれないが、新しい施設は花火の効果を狙っているのかなとも思った。公民館はどこへ移ってもいいというものではない。その地域をある程度反映したものでないと。

(委員長)

すぐに結論やまとめができるものではないが、今後も引き続き議論していきたい。

(委員長職務代理)

今回で第7期も最後ということになったが、良い報告書ができたと思う。来期はこの提案部分について進めていきたい。我々は機械化とは逆に人力の方向で行きたい。